

## 希少植物の生息域外保全活動で栽培に取り組む植物

- \* A～Fの中から希望する種（複数可）を選択できます。（A・Bは、必須ではありません。）  
ただし、E、Fについては、セット数に限りがあるため、申し込み順とします。
- \* 2014・2015年度から栽培している種があれば、2016年度での継続栽培も可とします。
- \* 自事業所内に緑化できる場所がある場合、適期にその場所に移植し栽培することも可とします。
- \* 社内・社外での啓発・広報に努めましょう。
- \* 植物の株は、すべて、京都市内の産地に由来するものです。栽培セットの経費は、これらを含む京都ゆかりの希少植物保全のための事業に活用しています。

### A フタバアオイ（ウマノスズクサ科 多年草）



1400年続く葵祭に欠かせない植物です。環境省・京都府のレッドデータブックに記載はありませんが、環境の変化で激減しています。ハート形の葉が特徴で、双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。NPO法人「葵プロジェクト」（上賀茂神社内）などによって保全繁殖が図られています。

- ◆**育て方**：木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも可能。
- ◆**花期**：3月～5月
- ◆**活用**：希望する事業者は、上賀茂神社に株を返納していただくと、「葵祭」で使われます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
3株＋容器等 5,000円

### B フジバカマ（キク科 多年草）



源氏物語にも登場する秋の七草の一つで、水田の畔、河川敷など水辺に育つ植物ですが、府内ではほとんど見られなくなりました。一般に流通するのは別種。葉は香料となり、海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。KBS京都・緑化協会、各地の保全団体などが栽培保全に取り組んでいます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)  
京都府データブック：絶滅寸前種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。
- ◆**花期**：（鉢植）9月下旬～10月
- ◆**活用**：希望する事業者は、梅小路公園等で鉢植えを実物展示（または写真展示）していただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
5株＋容器等 5,000円

### C ヒオウギ（アヤメ科 多年草）



鮮やかな朱色の花が祇園祭に合わせたように咲き、厄除け・魔除けとして鉾町などに飾られます。葉は扇が開いたような形です。タネは漆黒で、「ぬばたま」「うばたま」の別名があります。一般にはこれより背が低い変種（ダルマヒオウギ）の系統が流通しています。

環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。比較的乾燥にも強い。
- ◆**花期**：7月中旬～9月
- ◆**活用**：希望する事業者は、祇園祭のコーナー等で鉢植えを実物展示していただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
3株＋容器等 3,000円

**D** キクタニギク (キク科 多年草)



京都の東山を流れる菊溪(菊谷)川の河川敷に、かつて自生していたことが和名の由来です。江戸時代まで川の周辺は文人も訪れるキクの名所でしたが、現在は環境の変化で自生は確認できません。明るい葉色で、晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)  
京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

- ◆育て方：日当たりを好みます。風通しに注意します。
- ◆花期：10月下旬～11月
- ◆活用：希望する事業者は京都駅ビル「緑水歩廊」等で鉢植えを実物展示していただきます。
- ◆栽培セットの経費：  
3株+容器等 3,000円

**E** オミナエシ (スイカズラ科・旧オミナエシ科 多年草)



秋の七草の一つ。日当たりの良いやや湿った山野に自生。別名「あわばな」のとおり粟粒ほどの細かい花が咲きます。繊細な姿から「女郎花」と書き、近縁種オトコエシ(男郎花)と対をなします。盆花に使うほか、乾燥した根、茎、花は解熱などに効く生薬「敗醬(はいしょう)」となります。農林業の衰退とともに生育する里草が減ってきています。

環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドリスト：準絶滅危惧種

- ◆育て方：日当たりを好みます。夏期は乾燥に注意します。
- ◆花期：8月～10月
- ◆活用：希望する事業者は京都駅ビル「緑水歩廊」等で鉢植えを実物展示していただきます。
- ◆栽培セットの経費：  
1株+容器等 2,000円  
ただし、10セット限定。

**F** カワラナデシコ (ナデシコ科 多年草)



秋の七草の一つ。別名「大和撫子」は近縁の唐撫子(石竹)に対する名ですが、東アジアに広く分布する植物です。5枚の花弁の先が糸状に細かく分裂する優美な姿をしています。早ければ初夏に咲き始めるため、夏の季語にもなります。

環境省と京都府のレッドデータブックに記載はありませんが、7都県で絶滅のおそれがある種に区分。府内でも自生地が減っています。

- ◆育て方：日当たりを好みます。水はけ、風通しに注意します。
- ◆花期：6月～9月
- ◆活用：希望する事業者は京都駅ビル「緑水歩廊」等で鉢植えを実物展示していただきます。
- ◆栽培セットの経費：  
3株+容器等 3,000円  
ただし、30セット限定。

「活用」の展示場所等は、花の生育状況をふまえ、各施設と調整のうえお知らせします。

※栽培指導協力：公益財団法人京都市都市緑化協会、特定非営利活動法人葵プロジェクト